



知る、考える、進めるために。

除染情報プラザ

福島県

環境省

福島再生

REPORT

71

平成26年8月14日

福島の除染活動状況をお伝えします。

桑折町



座談会に参加した皆様。前列右から時計回りに、桑折町民研修センター「うぶかの郷」支配人・石幡政子さん、浮島智子政務官、石原伸晃大臣、「桑折御蔵」副理事長・畠腹桂子さん、伊達みらい農業協同組合モモ生産部会桑折支部支部長・亀岡吉徳さん、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・崎田裕子さん、伊達みらい農業協同組合代表理事組合長・安彦慶一さん、福島県農業総合センター果樹研究所主任研究員・阿部和博さん、桑折町長・高橋宣博さん。後列で帽子を被るのは町の観光キャンペーンクルー・スマイルピーチのお二人と町のキャラクター・ホタピー。

献上桃「あかつき」の産地・桑折町で7月31日、環境省ふくしま復興サポーターによる桃の収穫と出荷作業のお手伝い及び、桑折町のこれからを考える座談会が行われました。町内の除染が着々と進む桑折町では、今年秋に住宅の除染が完了する予定です。一方で、基幹産業である農業を取り巻く状況には依然として課題が残り、高橋町長は開会式で「献上桃は町の誇り。今日の機会を風評被害を払拭する一翼としたい」と挨拶しました。

石原大臣と浮島政務官もサポーターとともに桃農家を訪れ収穫作業に挑戦。傷をつけないように注意深く収穫し、もぎたてを試食しました。石原大臣は開口一番「おいしい！東京で食べる桃とは、ひと味もふた味も違いますね」と舌鼓を打ち、浮島政務官も「この香りを伝えられないのが残念。とても良い香りですね」と笑みを見せます。

安全な桃の生産のため、町、伊達みらい農業協同組合、県の果樹研究所が連携し、ゼロから除染の実施体制を整え、桃農家自ら果樹の除染に取り組みました。その努力の甲斐もあり、桑折町の桃は今年も21年連続で献上桃に選定されました。桃農家の佐藤徳雄さんは「安全安心を心がけ1本ずつ除染しましたから、桃が期待に応えてくれました」と、桃への愛情を語ります。

座談会では、「住民がクヨクヨしてはダメ」と言う「うぶかの郷」の石幡さんや「町の振興のため、食と健康を考えた取組を進めたい」という畠腹さん、そして「桃の海外輸出を増やして農業振興を図りたい」と言う伊達みらい農業協同組合の安彦さんをはじめ、参加者から、前向きに復興に取り組む思いが語られました。石原大臣は「国内のみならず海外にも広く届けようと、今より先を目指す姿勢に感銘を受けました。環境省としてもできる限りのサポートを続けたい」と締めくくりました。

国は、今後も町と協力し復興に向けた地域の取組を後押ししていきます。

住宅除染が間もなく終了。
風評被害の払拭に取り組む
献上桃の郷。



佐藤さん（右）の指導で桃を収穫する石原大臣。浮島政務官（左）と高橋町長（中央右）も一緒に。



選果場では確かな品質の桃だけが選ばれる。選果のコツをうかがう石原大臣（左）と浮島政務官（右）。